




第4回 公共施設のあり方検討 市民ワーキング

2017.11.11

長久手市総務部財政課



まちづくり、
まずは笑顔で
こんにちは

内容

1. 本取組と公共施設等総合管理計画
2. スケジュールとこれまで
3. 前回ワーキングの結果

1. 本取組と公共施設等 総合管理計画

1. 本取組と公共施設等総合管理計画

本ワーキングの目的

■ 市民が使う公共施設の今後のことを、行政だけでなく、市民と一緒に考える。

■ 考えた結果を参考にし、「公共施設等総合管理計画」を更新する。

1. 本取組と公共施設等総合管理計画

公共施設等総合管理計画とは

【公共施設等総合管理計画とは】

・公共施設等の総合的かつ計画的な管理を推進するための計画。

【計画の目的】

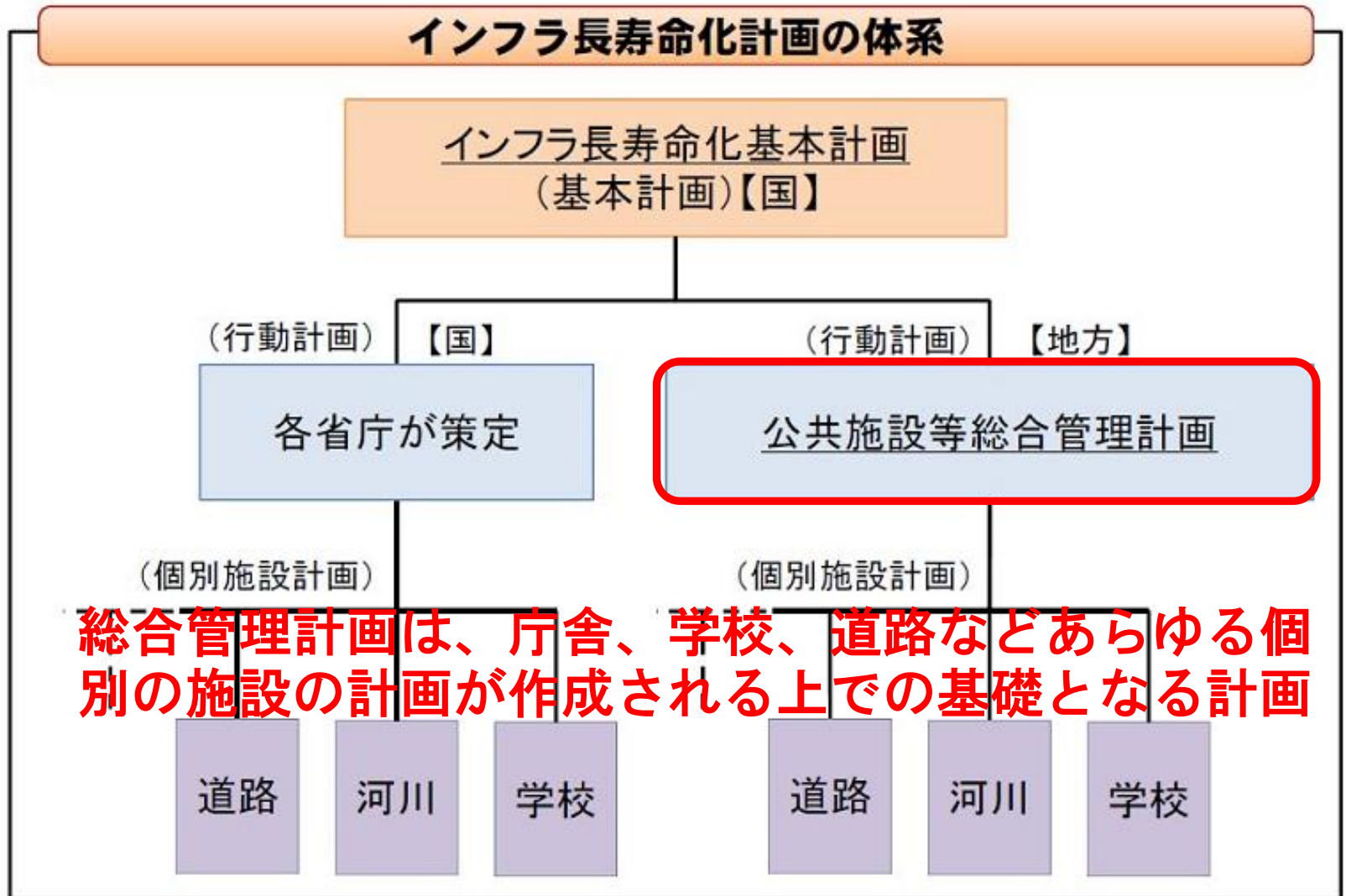
・将来発生する公共施設等の更新需要に備えるため、長期的な視点をもって公共施設等の更新や長寿命化対策を計画的に行うとともに、所要の財源の確保、財政負担の平準化を図る必要がある。

平成29年度は、更新版を策定する予定。



1. 本取組と公共施設等総合管理計画

公共施設等総合管理計画とは



1. 本取組と公共施設等総合管理計画

長久手市公共施設等総合管理計画の内容

●平成29年3月策定

●計画期間：**34年間**（2017～2050）

●対象施設：市が所有する全ての公共施設等

- ・市役所庁舎等を含む公共施設（ハコモノ）
- ・道路、橋、公園等を含むインフラ施設

●公共施設の保有量：**約151,998㎡**
（うち**49.1%**が学校施設）

●ライフサイクルコスト：上記計画期間中の合計
約985.3億円
（**29億円／年**）

1. 本取組と公共施設等総合管理計画

本市の公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する基本方針

基本方針1 誰もが安全で安心して利用できる公共施設等を目指します。

耐震化や、老朽化対応、バリアフリー化の推進等により、誰もが安全で安心して利用できる公共施設等を目指します。

基本方針2 公共施設の更新時に機能の複合化を前提に検討するとともに、公民連携の促進や、広域連携などにより、トータルコストを縮減します。

長期間のライフサイクルコストを考慮した施設の維持管理を行うとともに、公共施設の更新時に機能の必要性を勘案のうえ、複合化を前提に検討するほか、公民連携等による施設管理、広域連携による施設運用を行うなど、新たな手法を検討することにより、トータルコストの縮減を目指します。

基本方針3 将来計画に基づき、財政負担を平準化し、計画的に基金を積み立てます。

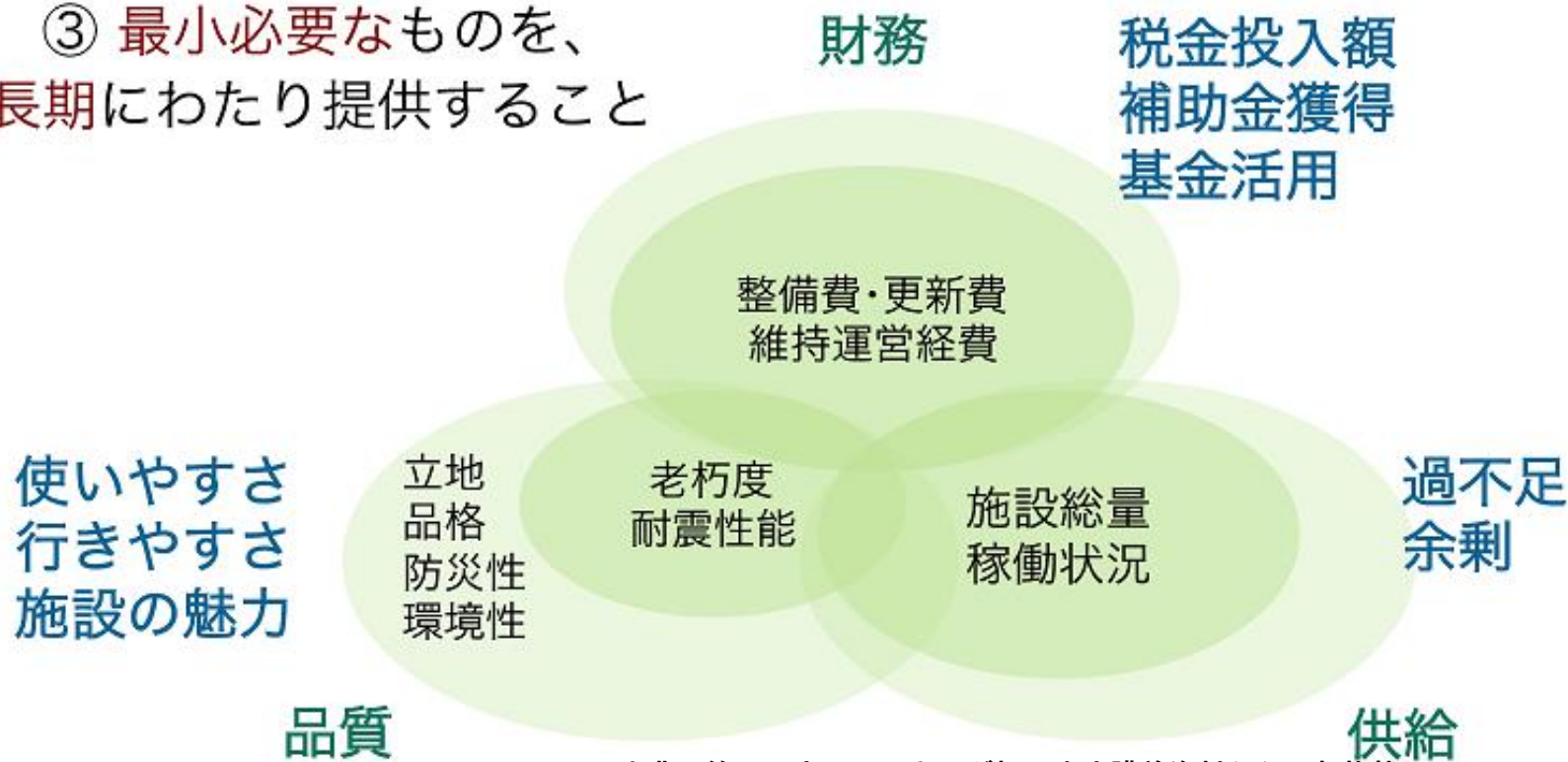
公共施設等の将来にわたる更新等に必要とされる金額を推計し、長寿命化等により財政負担を平準化するとともに、財源不足が生じないように、基金の積立てや起債の発行などを計画的に行います。

1. 本取組と公共施設等総合管理計画

ファシリティマネジメント（FM）とは（一般論）

公共施設マネジメント（FM）とは、
組織の**目的達成**のために、公共施設**すべて**を**経営資源**として

- ① **経済的なコスト**で、
- ② **良好な品質(環境)**を、
- ③ **最小必要なもの**を、
長期にわたり提供すること



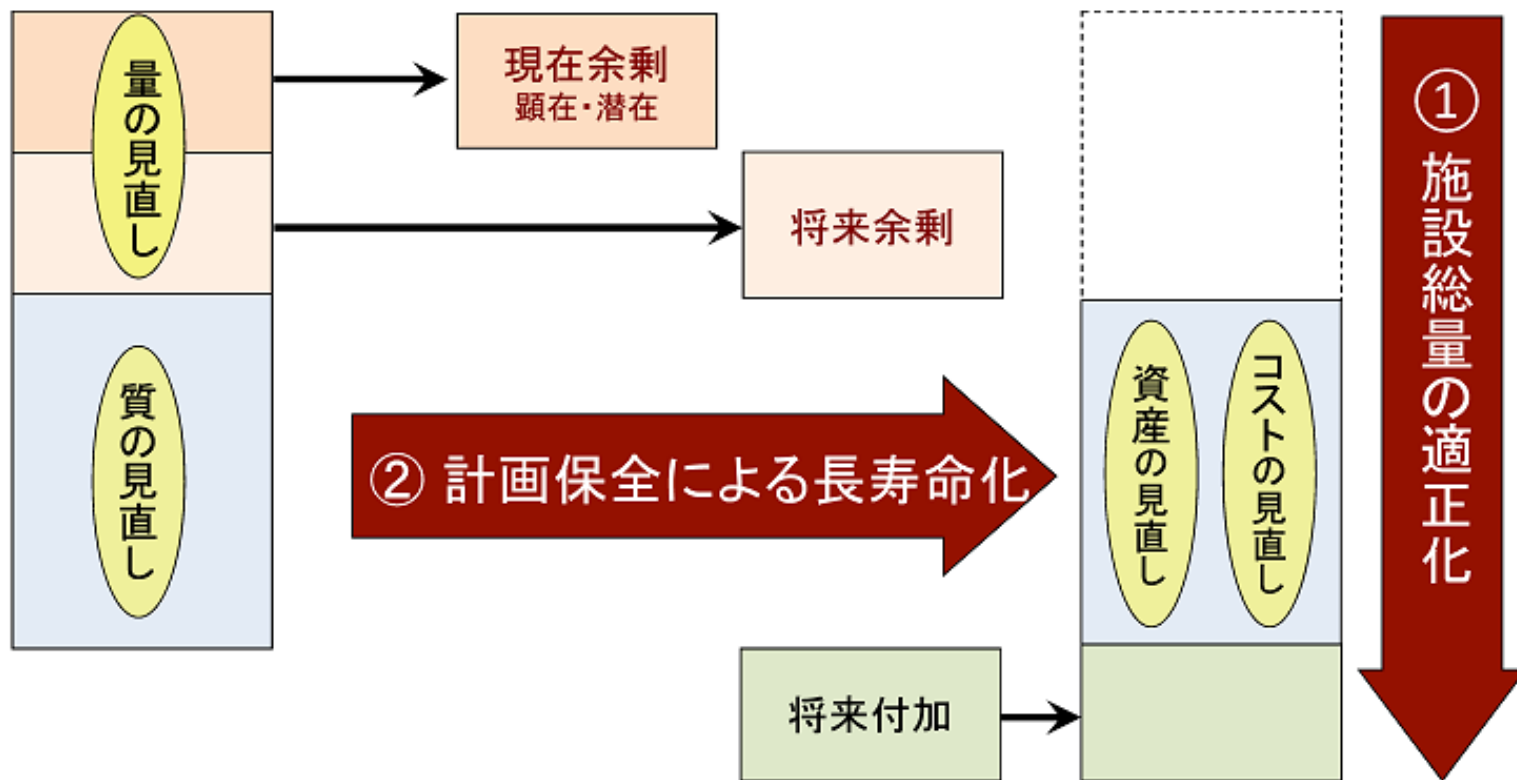
出典：第1回市民ワーキング恒川先生講義資料から一部抜粋

1. 本取組と公共施設等総合管理計画

ファシリティマネジメント（FM）とは（一般論）

<現在の施設群>

<将来の施設群>



目標設定のための施設関連データに基づくマネジメント

1. 本取組と公共施設等総合管理計画

長久手市の状況（公共施設の特徴）

- 人口・人口密度からみて、一人あたり公共施設保有量は県内平均レベル
- 学校施設の比率が50%、医療・保健施設、文化施設、図書館の一人あたり面積は大きい
- 人口増加に合わせて施設が建設されてきたが、老朽度はほか自治体に比べて低い
- 今後も人口は増加傾向にあり、施設需要は高まり、今後も市役所等施設の整備も想定される
- リニモ沿線や主要道沿線には公共施設が少ない
- 公園、博物館、大学、大型商業施設など、社会資本の充実度はきわめて高い

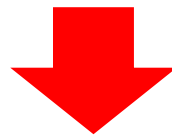
→将来的な都市の姿と公共施設計画の方向性は一致するか？

【人口推計】

本市は現在、人口増加中ではあるが、推計上、2035年頃の**65,000人**をピークに、以降**緩やかに減少**していく。

【人口構造の推移】

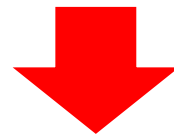
本市は「若いまち」と言われているが、**いずれは高齢化社会が到来する。**



税収減の要素

1. 本取組と公共施設等総合管理計画

公共施設は、いったん建てれば維持管理コストが発生し続ける！



しかし



新たに設置したり、維持していくための
財源（税金）は、いずれ減少していく！

1. 本取組と公共施設等総合管理計画

本ワーキングの目的

■ 市民が使う公共施設の今後のことを、行政だけでなく、市民と一緒に考える。

■ 考えた結果を参考にし、「公共施設等総合管理計画」を更新する。

2. スケジュールとこれまで

2. スケジュールとこれまで

第2回市民ワーキング



2017.9.24(日) 第2回ワーキング

★市内公共施設の現地確認

★現場を見た上での意見交換

2. スケジュールとこれまで

第3回市民ワーキング



2017.10.14(土) 第3回ワーキング

★利益性⇔公益性、広域⇔狭域
などの観点から施設を性質別に
分類（マッピング）

★施設ごとに現状の課題などを
検証



2. スケジュールとこれまで

第1回（8月26日）

現状に関する情報共有

第2回（9月24日）

現場の確認

第3回（10月14日）

課題の抽出

第4回（11月11日）

課題に対する提案

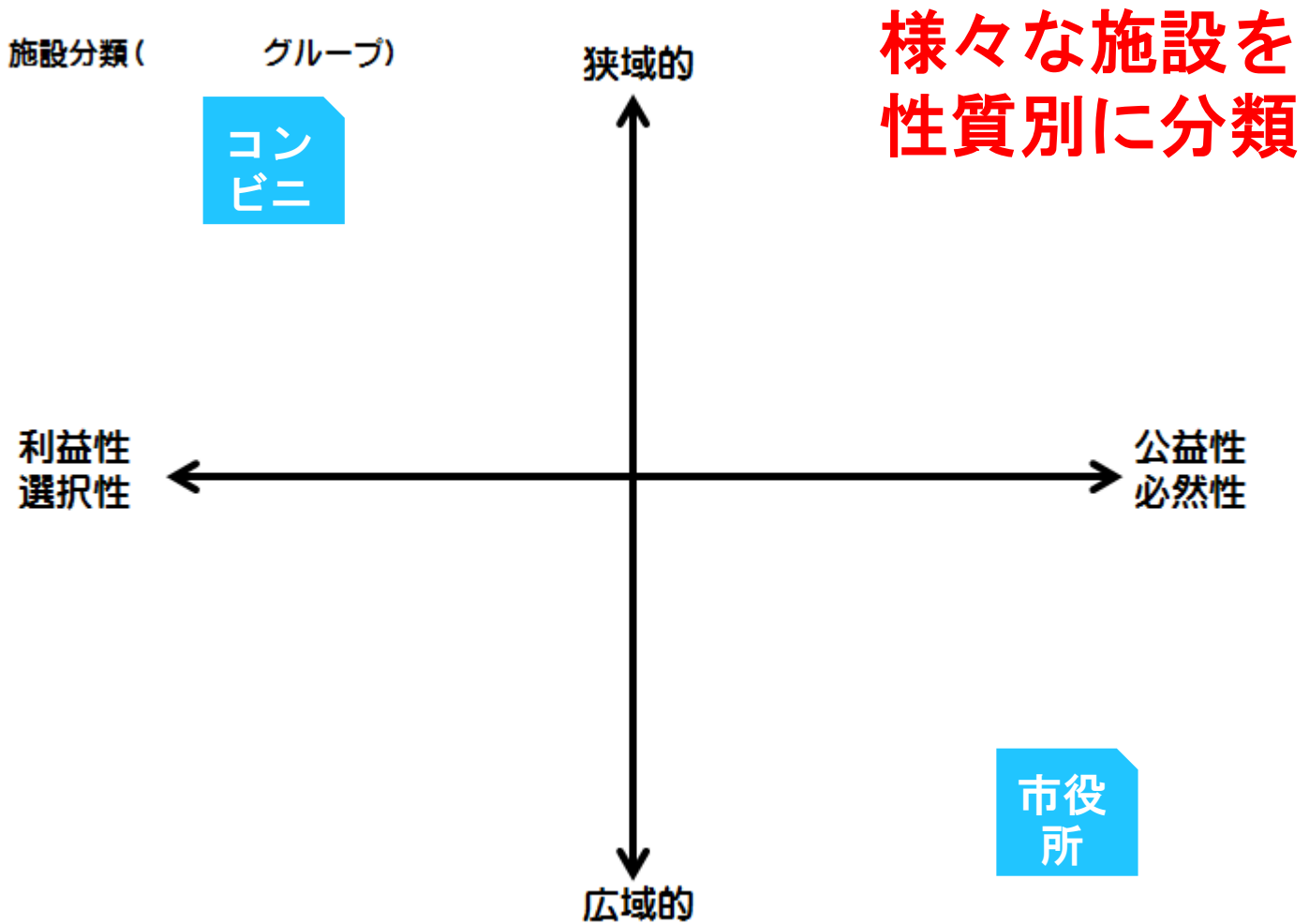
第5回（11月26日）

総まとめ（結論）

3. 前回ワーキングの結果

3. 前回ワーキングの結果

第3回市民ワーキング内容



3. 前回ワーキングの結果



3. 前回ワーキングの結果

第3回市民ワーキング内容

優先検討課題 (グループ)

① 施設類型・施設名()

《 本来求められるもの 》

《 現状の課題 》

気軽に
使える

利用率
が低い

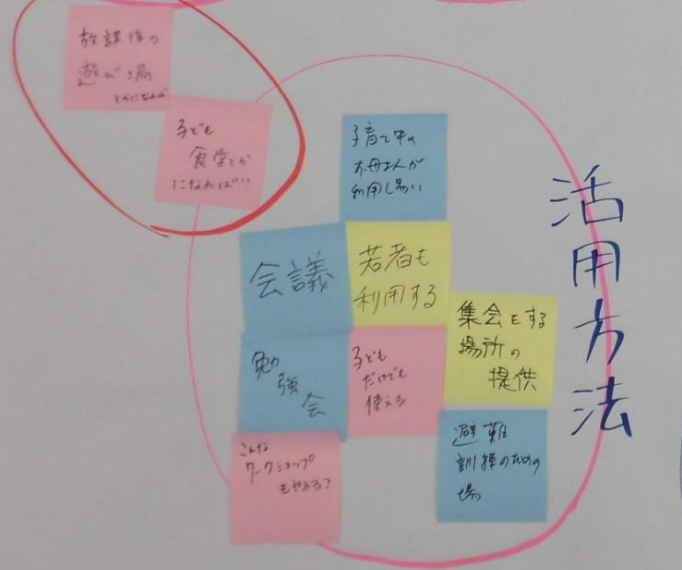
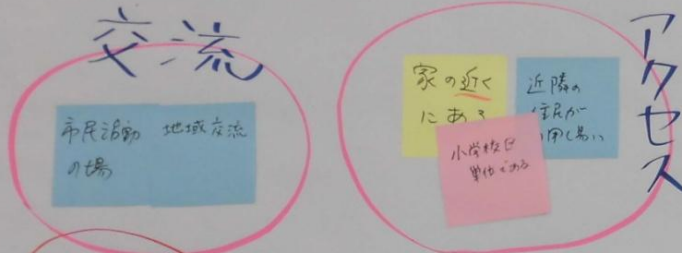
**グループごとに様々な施設における
現状の課題を整理**

3. 前回ワーキングの結果

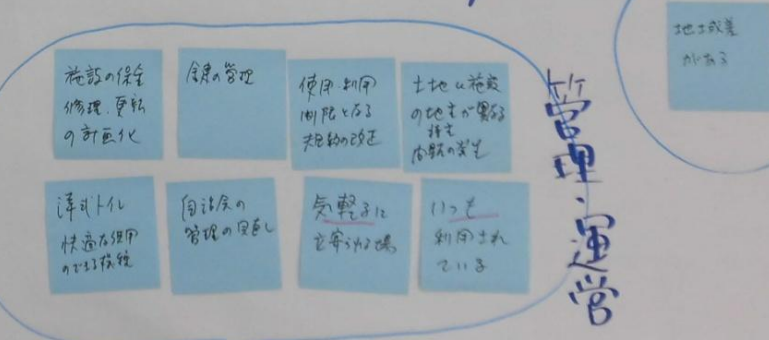
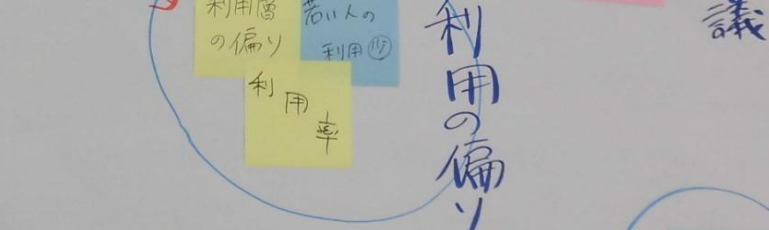
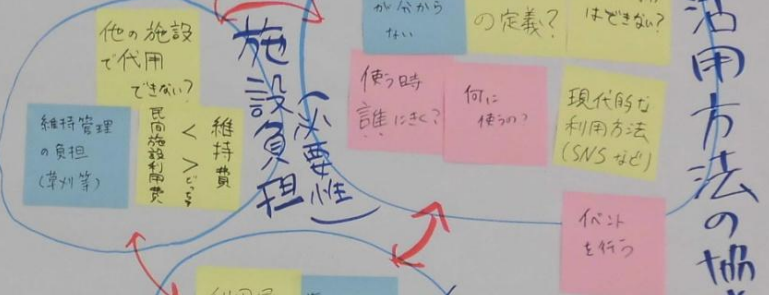
優先検討課題 (C グループ)

① 施設類型・施設名 (集会所)

《 本来求められるもの 》



《 現状の課題 》



(広域的施設)

- 市役所
- 図書館
- 杵ヶ池体育館
- 県立芸術大学
- 文化の家

(狭域的施設)

- 公園
- 老人憩の家
- 集会所
- 野球場
- スポーツの杜

3. 前回ワーキングの結果

(広域的な施設の例)

広域的な施設	
本来求められるもの	現状の課題
杵ヶ池体育館	
市民の健康増進・体力向上	今後数十年維持可能性
交流の場	公園全体を利用したイベントの充実(マルシェなど)
スポーツの振興	駐車場が足りない
気軽に使える	休憩施設やプールがない
安価な利用料	運動器具の更新
休憩施設の充実	古い
避難所としての機能	規模が小さい
	予約がとりづらい

3. 前回ワーキングの結果

(狭域的な施設の例)

狭域的な施設	
本来求められるもの	現状の課題
老人憩の家・集会所	
歩いて行ける	鍵がかかっている、使い勝手が悪い
老若男女誰でも使える	管理や許可の主体が分かりづらい
気軽にいつでも使える	バリアフリーが不十分
多様性	駐車場が足りない
活気のある場所	一部の人しか利用していない(憩の家は、高齢者専用)
市役所の窓口機能があってもいい	老人憩の家や集会所を統合して、使いやすくしてもよいのではないか

第3回公共施設のあり方検討市民ワーキング グループ検討結果

グループ	広域的な施設		狭域的な施設	
	本来求められるもの	現状の課題	本来求められるもの	現状の課題
A	市役所		街区公園	
	戸籍、税、健康保険などの窓口業務	今後の少子高齢人口減少減収社会を見据えた自治体の将来像	いつでも気軽に使える	騒音
	建物が頑丈であること	市役所業務が肥大化している	体を動かす(含スポーツ)(含高齢者)	雑草
	住民の安心安全	縦割り行政で、横の連携が弱い	美観(水場、芝生、花、緑)	駐車場が足りない
	職務を遂行する人材	各種サービスのワンストップ化(利便性向上)	地域交流・つながり	高齢者にとっては、家からすぐ近くにあるとよい
	自治体行政への市民参加の促進	市民と職員、市民同士の話し合いの場所	安全に使える	あまり賑わっていない気がする
	雇用の創出	地区(小学校区)ごとに特色があり、課題がある	マルチエなにかもできるという	全面芝生にしてもいいかも
	自治体行政の市民への移行	市役所支所の設置→小学校区単位での問題解決、住民参加・職員雇用の増加	多様性	
B	図書館		老人憩の家・集会所	
	本の貸し借り	市の図書館をほとんど利用したことがない	歩いて行ける	鍵がかかっている、使い勝手が悪い
	文化的にリードする存在	飲食スペースの充実	老若男女誰でも使える	管理や許可の主体が分かりづらい
	歴史的文献の保存	駐車場が足りない	気軽にいつでも使える	バリアフリーが不十分
	勉強する場所	移動図書館があってもいい	多様性	駐車場が足りない
	アクセスのよさ	本が買えてもいい	活気のある場所	一部の人がしか利用していない(憩の家は、高齢者専用)
	くつろげる空間	民間に運営をまかしてもいいかも	市役所の窓口機能があってもいい	老人憩の家や集会所を統合して、使いやすくしてもいいのではなか
C	秋ヶ池体育館		集会所	
	市民の健康増進・体力向上	今後数十年維持可能性	交流の場	維持管理の負担(草刈りなど)
	交流の場	公園全体を利用したイベントの充実(マルチエなど)	比較的家の近くにある	一部の人がしか利用していない(若い人の利用が少ない)
	スポーツの盛衰	駐車場が足りない	会議する場所	使い方が分からない
	気軽に使える	休憩施設やプールがない	勉強する場所	何のために使う施設が分かりづらい
	安価な利用料	運動器具の更新	避難訓練の場所	計画的な修繕、保全の必要性
	休憩施設の充実	古い	子育て中のお母さんも使える場所	もっと気軽に使えるとよい(憩の管理等)
	遊戯所としての機能	規模が小さい	子供だけでも使える場所	地域根拠(施設がないところもある)
		予約がとりづらい	ワークショップ会場としても使える場所	他の施設で代用できないか
	県立芸術大学			
芸術振興	施設の老朽化			
人材育成	市民への開放			
地域に開かれた学校(学校長、市民講座等)	市民にとって何をやっているか分かりづらい			
D	文化の家		野球場・スポーツの柱	
	市民が文化活動を行う場(練習・発表)	利用料金が安いかも	スポーツをする場	予約がいっぱいでなかなか利用できない
	市民が文化芸術を楽しむ場(鑑賞)	維持コストが高そう	スポーツを見る場	空いているとき予約なしでも利用できないか
	市の文化行政発信の場	市民全体というより、一部(プロ)の利用が多い	市民が気軽に体を動かす場	立地的に交通の便が悪い
	市の顔(式典会場などにも使用できる)	予約がいっぱいでなかなか利用できない	交流の場	設備の充実
	遊戯所としての機能	ホールの構造が高齢者向きでない(バリアフリーに課題)	いつでも使える場所	汎用性がない(野球場に限定)
		他の自治体よりホールの規模が小さい(1000人以上収容可能なところも)	イベント会場としてもよい	近隣市町との相互利用を考えたもよいのでは

3. 前回ワーキングの結果

第3回公共施設のあり方検討市民ワーキング 各グループ検討結果

グループ	広域的な施設		狭域的な施設	
	本来求められるもの	現状の課題	本来求められるもの	現状の課題
A	市役所		街区公園	
	戸籍、税、健康保険などの窓口業務	今後の少子高齢人口減少減収社会を異なった自治体の将来像	いつでも気軽に使える	騒音
	建物が増えていること	市役所業務が拡大している	体を動かす(虫スポーツ)(合置給湯)	駐車
	住民の安心安全	経費の増加で、機材の調達が難しい	健康(水泳、養生、花、緑)	駐車場が足りない
	業務を遂行する人材	各種サービスのワンストップ化(利便性向上)	地域交流・つながり	高齢者にとっては、家からすぐ近くにあるとよい
	自治体行政への市民参加の促進	市民と職員、市民同士の話し合いの場	安全に使える	あまり動かない感じがする
	雇用の創出	地区(小中学校)ごとに特色があり、課題がある	マルチ世代間かもしやすい	全面養生してほしいかも
	自治体行政の市民への移行	市役所業務の前置—小中学校単位での関係構築、住民参加、職員雇用の増加	多様性	
B	図書館		老人憩いの家・集会所	
	本の貸し借り	市の図書館をほとんど利用したことがない	歩いて行ける	暑かかっている、使い勝手が悪い
	文化的にリードする存在	飲食スペースの充実	若者男性でも使える	管理や許可の主体が分かりづらい
	歴史的文献の保存	駐車場が足りない	夜間いつでも使える	バリアフリーが不十分
	勉強する場所	移動図書館があってもいい	多様性	駐車場が足りない
	アクセスのよさ	本が買えてもいい	活気のある場所	一部の人が利用していない(障の家は、高齢者専用)
C	秋ヶ池 体育館		集会所	
	市民の健康増進・体力向上	今後数十年維持可能性	交流の場	維持管理の負担(草刈りなど)
	交流の場	公園全体を利用したイベントの充実(マルチジェなど)	比較的家の近くにある	一部の人が利用していない(若い人の利用が少ない)
	スポーツの盛衰	駐車場が足りない	合宿する場所	使い方が分からない
	気軽に使える	休憩施設やプールがない	勉強する場所	何のために使うのか分かりづらい
	安価な利用料	運動器具の更新	遊戯訓練の場所	計画的な準備、保全の必要性
	休憩施設の充実	古い	子育て中のお母さんでも使える場所	もっと気軽に使えるとよい(園の管理等)
	遊技場としての機能	規模が小さい	子供だけでも使える場所	地域結束(施設がないところもある)
		予約がとりづらい	ワークショップ会場としても使える場所	他の施設で代用できないか
	県立芸術大学			
芸術鑑賞	施設の老朽化			
人材育成	市民への開放			
地域に開かれた学校(学校祭、市民講座等)	市民にとって何をやっているのかわかりづらい			
D	文化の家		野球場・スポーツの杜	
	市民が文化活動を行う場(練習・発表)	利用料金が安いかも	スポーツをする場	予約がいっぱいでなかなか利用できない
	市民が文化芸術を楽しむ場(鑑賞)	維持コストが嵩そう	スポーツを興える場	空いているとき予約しても利用できないか
	市の文化行政発信の場	市民全体というより、一部(プロ)の利用が多い	市民が気軽に体を動かす場	立地的に交通の便が悪い
	市の集(式典会場などにも使用できる)	予約がいっぱいでなかなか利用できない	交流の場	設備の充実
	遊技場としての機能	ホールの構造が運動向きでない(リニアフューに課題)	いつでも使える場所	汎用性が高い(野球場に限定)
	他の自治体よりホールの規模が小さい(100人以上収容可能なところも)	イベント会場としてもよい	近隣市町との相互利用を考えたほうがいいのでは	

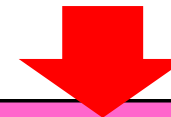
第3回の意見から公共施設全体の議論に繋がり、複数の施設で上がった意見を抽出



4つのテーマに分類

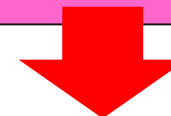
住民の安心安全
自治体行政への市民参加の促進
文化的にリードする存在
歴史的文献の保存
スポーツの振興
避難所としての機能
市の文化行政発信の場
市の顔(式典会場などにも使用できる)
交流の場

地区(小学校区)ごとに特色があり、課題がある
交流の場
つながり
活気のある場所
地域格差(施設がないところもある)



拠点(広域)

拠点(狭域)



テーマ1

・広域と狭域の拠点づくり

アクセスのよさ

駐車場が足りない

歩いて行ける

比較的家の近くにある

高齢者にとっては、家からすぐ近くにあるとよい

立地的に交通の便が悪い



テーマ2

・アクセス・立地

気軽に使える	各種サービスのワンストップ化 (利便性向上)	公園全体を利用したイベントの充実(マルシェなど)
老若男女誰でも使える	市の図書館をほとんど利用したことがない	マルシェなんかもできるといい
気軽にいつでも使える	あまり賑わっていない気がする	多様性
鍵がかかっていて、使い勝手が悪い	一部の人しか利用していない(憩の家は、高齢者専用)	市役所の窓口機能があってもいい
もっと気軽に使えるとよい(鍵の管理等)	一部の人しか利用していない(若い人の利用が少ない)	子育て中のお母さんも使える場所
予約がとりづらい	老人憩の家や集会所を統合して、使いやすくしてもよいのではないか	子供だけでも使える場所
予約がいっぱいではなかなか利用できない	他の施設で代用できないか	汎用性がない(野球等に限定)
空いているとき予約なしでも利用できないか		



利便性(使い勝手)



効率性



多様性



テーマ3

- 施設の有効利用 (利便性・効率性・多様性)

施設の老朽化

地域に開かれた学校(学校祭、市民講座等)

民間に運営をまかせてもいいかも

市民への開放(大学)

他の自治体よりホールの規模が小さい(1000人以上収容可能なところも)

近隣市町との相互利用を考えてもよいのでは



テーマ4

・老朽化・庁外連携

広域・狭域で考
える市の拠点

アクセス・立地

4つのテーマごとに長久手の
公共施設について考えよう！

施設の有効利用

(利便性・効率性・多様性)

老朽化・庁外

連携